

科目責任者 大石 一彦（薬理学研究室）

■ 教育目的

本講では、ホルモン関連薬、代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用・機序を中心として講義し、それらの治療薬の有効性・安全性の薬理的基盤を学習していく。

■ 学習到達目標

ホルモン関連薬、代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。薬物の相互作用、依存性・耐性、副作用、毒性について具体例を挙げて説明できる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：講義テキスト・参考書の該当箇所を目を通しておく。

復習：講義テキスト・参考書・演習問題等を活用し、講義内容を復習するとともに、関連事項について調べ知識を整理する。

■ 授業内容

| No. | 項目 | 授業内容 | SBO コード |
|-----|-----------|--|--|
| 1 | 感染症と薬 | 抗菌薬 | E2 (7) -①-1 |
| 2 | // | 抗寄生虫・寄生虫薬、抗真菌薬 | E2 (7) -⑤-1 E2 (7) -⑥-1 |
| 3 | // | 抗ウイルス薬 | E2 (7) -④-1 ~ 5 |
| 4 | 悪性腫瘍と薬 | 抗悪性腫瘍薬 | E2 (7) -⑧-1 |
| 5 | // | // | E2 (7) -⑧-1 |
| 6 | // | // | E2 (7) -⑧-1 E2 (7) -⑩-1 |
| 7 | 感覚器に作用する薬 | 眼に作用する薬物 耳・鼻に作用する薬物 皮膚に作用する薬物 | E2 (6) -①-1 ~ 3 E2 (6) -②-1 E2 (6) -③-1 ~ 3 E2 (6) -④-1 |
| 8 | ホルモンと薬 | ホルモン分泌異常症の治療薬 | E2 (5) -②-2 ~ 4 |
| 9 | // | // | E2 (5) -②-2 ~ 4 E2 (5) -③-1 |
| 10 | // | 性ホルモン関連薬 | E2 (5) -②-1 |
| 11 | 代謝系に作用する薬 | 糖尿病治療薬 | E2 (5) -①-1 |
| 12 | // | 脂質異常症治療薬 高尿酸血症・痛風治療薬 カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する治療薬 | E2 (5) -①-2,3 E2 (5) -③-1 |
| 13 | 医薬品の安全性 | 薬物相互作用 | E1 (1) -①-8 |
| 14 | // | 薬物依存性、耐性 | E1 (1) -①-9 |
| 15 | // | 有害事象、副作用、毒性 | E1 (4) -①-1,2 |

■ 授業分担者

野澤 玲子 (No.1 ~ 7)、大石 一彦 (No.8 ~ 15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

演習問題を解いて理解度を確認し、解説等によりフィードバックを行う。

学期末試験（90%）および出席状況・授業態度（10%）で総合評価を行う。

■ 教科書

必要に応じてプリントを使用

■ 参考書

『新 図解表説 薬理学・薬物治療学』 菱沼 滋 著（医学評論社）

『薬理学－医薬品の作用』 竹内 幸一 他 編著（廣川書店）

『NEW 薬理学』 田中 千賀子 他 編著（南江堂）

『グッドマン・ギルマン薬理書（上・下）』 高折 修二 他 監訳（廣川書店）